

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	15-052	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Asian American problem drinking trajectories during the transition to adulthood: ethnic drinking cultures and neighborhood contexts. アジア系アメリカ人の成人期に至るまでの問題飲酒の軌跡：民族的な飲酒文化と地域背景		
<b>執筆者</b>		
Cook WK, Karriker-Jaffe KJ, Bond J, Lui C.		
<b>掲載誌</b>		
Am J Public Health. 2015 May;105(5):1020-7. doi: 10.2105/AJPH.2014.302196.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、民族、文化、社会経済状態、出生国		25393183
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> アジア系アメリカ人が青年期から成人期に至る過程の問題飲酒の軌跡と予測因子について明らかにすることを目的とした。有害な飲酒習慣が身に付く危険性が高い集団を同定するため、文化のおよび社会経済的背景因子、特に民族の飲酒習慣、居住地域の社会経済状態および民族の密度について検討した。		
<b>方法：</b> National Longitudinal Study of Adolescent to Adult Health の4期にわたる調査期間から集められた 1,333 名のアジア系アメリカ人を対象とした。大量飲酒の頻度および酔酩した頻度の推移パターンを特定するため混合成長モデルを用いた。また推移パターンの予測因子を特定するために多項ロジスティック回帰モデルにより検討した。		
<b>結果：</b> 出生国別の民族的飲酒文化の二つの側面である飲酒者率と有害な飲酒習慣は、大量飲酒を経験する頻度および酔酩を経験する頻度が年齢と共に変動する軌跡パターンを予測するものであった。青年期の近隣の社会経済状態が良好であることは、酔酩頻度の増加と関連していた。居住地域のアジア系、太平洋諸島出身者の密度は有害な飲酒パターンと関連していなかった。		
<b>結論：</b> アジア系アメリカ人にとって、出生国の飲酒文化は根強く残っている。有害な飲酒習慣を減らし、問題飲酒を防ぐためには、民族の飲酒文化についてさらなる調査が必要である。		